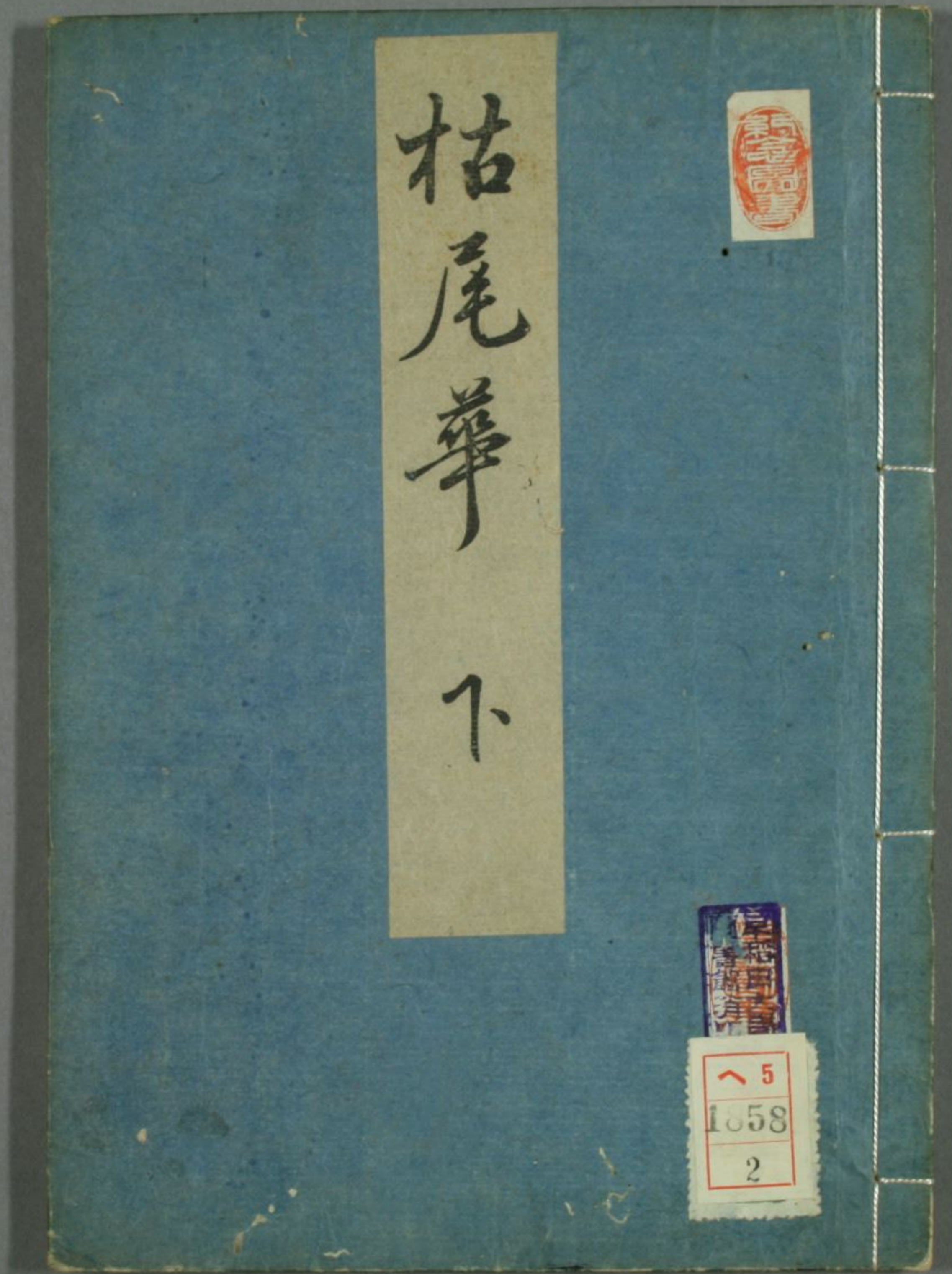


LICENSED PRODUCT

KODAK Color Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



枯尾華 下



5
1858
2



60

65

70

75

80

85



十月廿五日共桃隣出武江而暨
義仲寺望芭蕉翁之墓歎唱



いつのそこの用のしるもよも高のしる
おきてみへおちる春よわたり村よこち
笠子眠り小菖の病つるのほ世をふま
ゆねのちかぢもあまのさのちかぢ
るをくらけのうつふをを其角ハ
はる栗あつちや生おのちかぢあはる



色なりあはれしついでに遠よ境のいふ
いもの志うなるは江都めい
乃をるもいふこころいふ席を
もて追善真如のくさく他は
ひらひらひらひらいふ志を
て出さるん大いもいふ
いふいふいふいふいふいふ
義仲の屋上へいふいふいふ

水月うらなはれし心鏡一巻を
ひらきし一巻あはれしけし
乃をあはれしいふいふ利し他を利し
終に其神不竭今もいふいふ
いふいふ

いふいふいふいふいふ

山嵐雪耕

和歌集

和歌集

十月廿二日夜真行

嵐雪

十月廿二日 夜 真行

あつたのちよ一節の長 少屯

溢のゆり二るハ五魚しくまき 百里

高松と見れる沖の船以 神叔

のぬ乃ハつ子白おふを 祐 東潮

去驥ささみん 豆あひし 時 淳生

蜀黍の室をさそくがし 畑中 卜宅

お糸あつた子よて 土を 舟竹

新川よすい名もつう 松のく 桐雨

あつたあつた 照く 月下

存在のあつたあつた 田植を 風洗

猪子 ぼくを 干 楸下

幼虫の茶の湯延しては 咸宇

赤い菊さうり 黄の菊を 嗅 牧人

上と 菊一と 吹き 秋の風 出物歌

おあとおあ 床を 浪 鉤

ちとむも 菊よつて 白く 東嶽

為吉

山吹もくく初をこすれは 毒
 春の風を吹くをなまぬきしと 浮世
 氣おのころお時ハあはる 百五
 只あまの四十の内は樂坊を 氷花
 水もあまのしをなまぬきし 嵐雪
 くらひまてし務まの軒をのしり 神叔
 佐解のまの乃出就辭る 春殿
 春の空のまをま切打し送るま 百里
 城の近くは旅こもりある 神叔

傘のわたりあまのりく傘いなるお 吹雪
 あまのあまのりく母の氣をむ 氷花
 あまのりくあまのりくあまのり 春殿
 先度のあまのりく師走あつく 百里
 春のあまのりくくユむ大工あま 神叔
 中山道ハかたつてあまのり 嵐雪
 一歩も木の價のまのり 百里
 さあはれもあまのりく老 氷花
 春のあまのりくあまのりく墓のま 春殿

せし常の瘠のりらむさへ緑子

満座追善各焼香

たのふくの瘠ちも四六の跡に 百里
又おさあつる怨ふいつはち乃比 氷花

悔前非

みちのちの悲しむさ志きぬの 神叔
苦しおふくのさあき塚の雪 淳生
風のふとしあさふや墓乃月 舟竹

存りくうれれ瘠のさあ根の瘠し 咸亨
付由二たとならむ月あさる 舟竹
りねまゆなをさうきある潮既 舟竹
あさあさのりちをふおせさう 舟竹

芭蕉のあみかきくちるまねは
あさあさのりちをふおせさう
あさあさのりちをふおせさう
あさあさのりちをふおせさう

Handwritten mark

Handwritten mark

十月廿二日身り

好くも多く讀よとつと逆旅
るにあらんころりもかひひをて

仲やあまのききあいのわとおとち桃隣

流くゆりよを此目の乾子珊

一面に新あひ小松ゆやをそ杉風

よごれーるま川あま水

名由ハ多餘ありくるくく良

どこやう遊ぶおの帷子序志

皂莢又梅をなごる賜のた太丈

細ふし入ル古桶乃底亀水

心のよ今の信おと増とそ孤を

とまらうらら景の塩原子祐

は寒さあられ雪のある曇利牛

あ綿の重くも子のそ白足

脊へ傳ふあつふそくも蚊足

お通さるれそ畑のうり夢

やあつふ平泉さうよる月破坡

太洛
 幅せきふ 布の為綿
 白な陰ハ流く 岸の色
 八葉
 依のく魚子 燕あまふ
 桃川
 とろくやあまは西ませこまの
 元初合
 昼みはうりて 昔のこいを根
 酒乃を干なりく 一り笠
 文梁
 仰見おといて 狐飲をむ
 湖松
 明なるくをうかふ ちよん
 相美
 家のあまあまきこ 小利子住
 嵐夜

石菊
 丁寧子又批出て 送らう
 几々の雪の柳 比あつく
 ちり
 極のく 苦難とく ちのち
 嵐竹
 自みよ梓のせり ちよん
 此筋
 おうまへて 小経奢る 月のち
 素龍
 比脚 ちり ちよん ちよん
 手川
 よい ちよん ちよん ちよん ちよん
 楚舟
 流をちよん ちよん 雨あま
 角蕉
 折るちよん ちよん ちよん ちよん
 杏村

あはれとて白髪のおのつたる年 川鷗
見開けをたのつらなる花微笑濁子
香をたもせんし 乾りけをたら 滄波

哥仙満堂普音之吟

うらむつおほもなりや秋を月 杉風
栂まゆやあしも力もたふおわり 八素
先報もも栂殿よまの終はは 子珊

見ろ中より江中をうけん 居の松 太土
所よりぬれおのまのきんか 湖松
菊うれく白を惜む居士衣お 子祐
山茶もむを蝶の軽き栂もやん 方浩
うたの便をう絶くし 兼もみ 序志
葉のむも白くも向んくうし 亀水
元送りもさつりあうら 兼の兼 李里
骨肉のうらゆるりあうら 楚舟
兼はくし 兼はくし 居のちあも外 尾弦

悲しむを包みしるるあな
 され花をよこめんを牡丹
 もうけしや火燈の下の
 ぬきを思ふよりの子向か
 りるみゆ葉津うりの植柳
 その藪もくやいふれぬ石人
 むぢぬも昔の植木の燃きり
 あゝ色もる繩床さしあゝ
 神の由もをきりしは
 執白の角蕉

義仲とく送る悼

水くんと足もぬくさて藤川
 告ぐしあゝ死親おしあゝ山
 花もあゝと小春おあゝ山夕
 錫杖よりあゝあゝあゝ直方
 泣くくも目のあゝあゝあゝ
 おあゝあゝ櫛ハあゝ濁子
 ちあゝあゝあゝもやあゝ壺蛙
 何あゝあゝ白い率都等とあゝ山蓬

法眼

世にしとのち十余の長 涼葉
 小庭やちやちやの庭の凍、 大舟
 けんの庭や十段のたひりき 九板
 踏をみちや社のまの初歩 此筋
 立よほと心うほる塚のまね 千川
 力州引切りきつたあまの 淵泉
 まくまねるものん笠のまを所 支老
 菰のまやけける笠の糸 卜子
 室と菊乃咲ほまじる名おふ 捲糸

去りしと菊ハ戸ロよりしてある 其丹
 こや形元菴の燈蓋五指の松 茂勅
 何のつのはりのゆや 菰屋 蓬山
 五十二子ゆち一島のまろけみ ちり
 彫院流をまふも社め 鹿谷
 その塚をさそちま枯神のまのま 養子
 心ゆきを頼りて凝つく泪の家 馬寛
 風の声んち捨あもたまひんぐり 素新

十月廿九日追善

湖春

亦多々やあはれはるの木葉搔

一羽はくしよよ美の朝鳥 あふ就

破繩 ワカ 綴るるゆふ辰あふりく 露沾

昔はらの音れりける ハケ 山 洋水

新中りふあふにけし 露の壘 枕墜

あふ夢のちを川上 のさぐり 出氷

ゆふの物やうらう 孝人 つらふ 妙坡

あらく 雨の末 四五所 孤登

その形はねと巻るる 百合の巻 利牛

竈 カマド の火 ヒ たく て 宿 し り 家 セ 杉風

ま ら の 力 は い つ ち を こ り 死 所 素堂

帆 と も ら 舟 は る こ し ぐ り 筆

山 後 ま ら ひ あ ら し け 極 る 利合

盆 を は け す ま 急 を は け す 妙坡

膳 所 の 力 斤 間 も な く 思 は り 然水

二 と つ つ あ こ り あ 秋 柳蔭

む ら あ 老 る あ り て く 押 入 杉風

酒さしをわくくかやうり
 けつをんをお下至おの真を委
 立くつ選くつ雨の好相
 如あの子はさけは娘も昔おん
 子おの勢のくくは持園
 是この叔借り返す力おん
 高の義あつた大名のも
 物事の暗ちうあつた存れ
 財布こあつた洞よりあつた

利牛
 孤を
 桃隣
 盛可
 利合
 丹坂
 杉風
 利牛
 孤を

の餅の上くめさる配り餅
 山くを信はの者みゆくと
 本のをりよ兼美用
 言の本の並ひりつ折涼し
 小わけをうけてゆくあつた
 ニんく伊勢上るり乃物り
 袖中今師の好はるもの枝

出水
 枕隣
 杉風
 兼用
 孤を
 利牛
 時辰
 益可
 桃隣

そら優美あるよりの夕昏 利合

十月廿二日

音子亭みづく真如

今よりも雪のころを我の光る

仙化

かつてせあよ森へ並み鴨

是吉

あつた月黒ふ衣衣ハ純て

介我

掛ひのこころ階下くら

柴栗

了のの柏イフキ橙ニヤは

湖月

昼の前の穴をりあう

津寂

その向も世々の隙の日をうけ

揚水

カもあはく秘志ある

扱凡

けしを道く口をくわらぬの内

由之

雀の枝をさゆる乃あつた

全峯

日る原へさよ木の屑ハ泥あ行

沾徳

たひくもろり松平の志

季下

合羽あよるくらり 疑く白墨

津寂

小侍をいふにさみつかれ 扱み
 扇うしゆ様さしゆん月の身 柴車
 側のところろ白ひきまき 仙化
 おのきり様ささと舟よるん 扱み
 ちいさま松のうしむ例の入 李下
 ち貝の卓もあつてまのき 月
 日光擬子似あふ芳一飯 柴車
 かこころるを忘れ 年の程 介我
 ありあのおくハ名やう判了 非救

ちあつてえすえり茶入袋り 扱み
 あつた躑^{キヒス}とぬらまの紙 月
 墓のごとくをきつて情さう 介我
 ころを土戸めをよむ口元 治徳
 りまこの所くをけりさうり 仙化
 生^キくらみさをそ悪の入物 扱み
 年の月あ鳥帽子の乳の直^ラく 李下
 ニじりああう^キ並み虫あ 全拳
 色もあう^キ乳の黒の小葉喰^ム 非救

つらみと猶子たうり也 米由之
 肩痺のあま後者のよじしりんを
 常のえむ連気拍むの花の多 佑徳
 垣や女桃をくんの殺すい 湖月

深草のあまれ宗我氏を讃して
 いそよや友_ミ風月_ツ家_ミ旅_一泊_ラと
 芭蕉のあまれ宗我氏を讃して

旅の旅つゝの宗我氏の宿の戸素堂

あまれくくやあまれの尾北人 佑徳
 煙_一冥_一のあまきくあまを新_一あじ 秋風
 風子あひはほそと 猿乃面 介我
 月_一ちの色_一江の土や_一世の縁_一 暮子
 袴_一笠_一いづまを破_一乃_一面_一く_一き 湖月
 風_一のあ_一の_一や_一その_一の_一は_一ち_一と_一ころ 柴栗
 お_一あ_一れ_一笠_一う_一あ_一の_一う_一み_一ふ_一し 暮子
 か_一と_一あ_一根_一く_一い_一あ_一る_一を_一我_一が_一拙_一い
 帰_一も_一菊_一を_一あ_一く_一く_一菊_一の_一圖_一指

力州とらるるあしこり 乾花 山蜂
果も葉もさつみあはしう 芭蕉の 寒玉
十徳の神のあまのこ 神のま 秋色
まらうおむ 菴あしあまのうら 和水
句の帯やけ十日の世のくやま 芝蔴
さしんくひや 難波く向して 一雀
詠のまして 葉の蜜柑をさ向は 是吉
あまのみのま向あまのちがく 林也
雪のあまのちあまの忍のや名付 秋 李下

窓乃雪はしひ果ある拂子介 亀翁
青石乃陰もあまのれや木津不搔 横儿
後乃節子控あまのりの霜乃杖 景桃
又も事思跡よまろりくを桐柱 萍水
ちのし船や膝をかろくをを 野坡
糸乃弦を掛く世のふ時雨 孤屋
油火の溜く悔むや冬を 利半
すつるを河く枝の枯らる 柳介 疎雨

位はあつる多々やをまの如く合 感水
深川よりとらけつやなまのる 石葉
月のさねよまゝちうしやまをきか 利合
義成仲寺よまあせ七師の像のりした
四外を修せんはまの隠者の志子
一のく一とくは知ぬのあすけしちありぬ
りし奥子遠星を白濁くかろぬのむねの下
よあぬしよあぬとやうなるをせ
月をとり假の菴やせ所 批教

十一月十二日 初月忌

丸山量阿弥亭 興行

嵐雪

泣かしく寒菊ひかり耐^{コタ}たり
向上躰をき書のゆわはは 枕隣
法^ト堂のひろるを遅く扇をそく 岩翁
車^{カサ}よりこころの敷の畳ナリ 晋子
筆賣あつよ告^{カサ}しあぢいふ以 亀翁
うし傘と志^{カサ}ぬくたふ字 横儿

名月みゆか糸の一種おもひ付く尺艸
 おくくあほほと廣ふ相の糸 松翁
 白粉の鏡よりくる秋のしゑ 去来
 大船つゝ人のりさるる中 正秀
 長谷越の山よあつらふ吹るま 曲夏
 榎の木のつらむ海をたふさふ 筆
 吹るまの屏風を膝に押さ 徹士
 鼓のく色し大かゝりたる 心圭
 のまをうとる盆みあふる 暮四

名をきくもせく舟やゆん 巨海
 蜻蛉の衣飾つくりやゆん 荷兮
 湯あがり乃身れ冷るゆん 披童
 弓さうのひらゆるをを窺はる 風國
 山家のあ帯氣散れあふ 集加
 細子のなげくこころ心や花の陰 晋子
 杖より目あふ我老乃ち 重勝
 うらぬ和尔や雪用の浦はる 逢を
 塩辛桶やあまし 乃ツリハリ 撤士

雨の目ハちとまあさしうらるし 批陵
けさハちんちんとるあるほ目嵐雪
つらおハ喜おの所乃下あ恋 横儿
あささちちちちちの葉綺 荷今
うけむの金さうしほもま極女 去来
上はの聲を歌く適合 尺牘
ゆのまもいさく扇のましる言 如言
あもすみさる飛浮曲乃目 岩翁
うしこまる受戒の見乃白素繪 徹士

明能くしめよと使うさなる 晋子
あゝ腹の起り物らあの内 集加
檣子ゆきと軽うゆの蔓 桃陵
新や着坊持のまゝあゝ女 巨海
衣袂の小袖あるとるする 風女
生うらる齒をゆきうしとあおひ 晋子
このまゝ赤ハちちも言りも 尺巾
長旅よ持あらとらるほるぐ難 苦罪
一日 旅をうらう 教 心圭

湖を築^{イケス}みみする 山の景 尺中

多とりの字とまの世の額 鼠音

雪の月脚半もろに膳^{ツキ}傍に 桃凌

とことまをりしを^{エウ}榊^{ツク}焦く 巨海

か^{エウ}をの櫻くらげふ梅もま 考四

くしゆら^{ツキ}尻もく飼猿 岩翁

お^{ツキ}まのふ秉^{ツキ}蠟燭のきく^{ツキ} 漱士

おんりのあ^{ツキ}るあ^{ツキ}ふ十念 集加

産る^{ツキ}や色もくし^{ツキ}ふ男の子 晋子

とりちりし^{ツキ}ある^{ツキ}新夕乃酒風必

節^{ツキ}室の^{ツキ}の^{ツキ}自^{ツキ}ち^{ツキ}と^{ツキ}有^{ツキ}て^{ツキ}柏^{ツキ}子^{ツキ}あ^{ツキ}け 横儿

憐^{ツキ}と^{ツキ}可^{ツキ}方^{ツキ}よ^{ツキ}施^{ツキ}茶^{ツキ}合^{ツキ}する 尺中

形^{ツキ}より^{ツキ}こ^{ツキ}び^{ツキ}る^{ツキ}世^{ツキ}後の^{ツキ}く^{ツキ}心 桃凌

岩^{ツキ}の^{ツキ}中^{ツキ}の^{ツキ}あ^{ツキ}は^{ツキ}る^{ツキ} 著^{ツキ} 言四

鬼^{ツキ}の^{ツキ}よ^{ツキ}み^{ツキ}あ^{ツキ}る^{ツキ}し^{ツキ}て^{ツキ}垂^{ツキ}月^{ツキ}の^{ツキ}洞^{ツキ} 心圭

う^{ツキ}の^{ツキ}着^{ツキ}る^{ツキ}あ^{ツキ}を^{ツキ}か^{ツキ}ら^{ツキ}よ^{ツキ}あ^{ツキ}る^{ツキ} 尻雪

あ^{ツキ}の^{ツキ}も^{ツキ}あ^{ツキ}る^{ツキ}あ^{ツキ}さ^{ツキ}く^{ツキ}老^{ツキ}ぶ^{ツキ}お 若兮

う^{ツキ}の^{ツキ}門^{ツキ}付^{ツキ}る^{ツキ}垣^{ツキ}の^{ツキ}ゆ^{ツキ}め 去来

米^ナり^ナはもろあひて^ナぬる^ナ 沢舟 集加
 地蔵を建^ナて^ナまの^ナ 浮橋 晉子
 筆^ナの^ナ 制^ナれ^ナる^ナは^ナお^ナろ^ナ 拵^ナて 岩翁
 よう^ナと^ナ運^ナす^ナお^ナ宿^ナら^ナ木^ナ松 徹士
 天井^ナを^ナけ^ナじ^ナふ^ナる^ナを^ナた^ナあ^ナ鞠 尺中
 之^ナれ^ナ刈^ナ込^ナり^ナの^ナ多^ナ物 荷兮
 此^ナの^ナ好^ナめ^ナば^ナく^ナく^ナハ^ナッ^ナ下^ナリ 横儿
 考^ナは^ナく^ナこ^ナい^ナな^ナる^ナの^ナ版^ナ掛 心圭
 狭^ナ形^ナの^ナ竹^ナつ^ナる^ナも^ナの^ナ舟^ナ 嵐雪

さら^ナもの^ナ着^ナよ^ナと^ナ母^ナの^ナセ^ナマ^ナく^ナ舟^ナ童
 舟^ナを^ナら^ナ痛^ナハ^ナ付^ナ属^ナの^ナ池^ナ橋^ナあ^ナる^ナ 岩翁
 片^ナあ^ナる^ナ舟^ナを^ナ舟^ナの^ナ舟^ナ 風翁
 舟^ナを^ナと^ナ赤^ナ飯^ナく^ナと^ナる^ナ大^ナ井^ナ 辰 集加
 お^ナろ^ナく^ナを^ナあ^ナら^ナる^ナ百^ナ姓^ナの^ナ弓^ナ 晋子
 日^ナの^ナこ^ナこ^ナ心^ナは^ナい^ナあ^ナる^ナ 袴^ナ樓^ナさ^ナ 徹士
 舟^ナ脚^ナの^ナ登^ナ子^ナ 袴^ナし^ナ 尺中
 舟^ナ舟^ナみ^ナま^ナる^ナき^ナ 風^ナを^ナま^ナる^ナあ^ナけ^ナ 心圭
 舟^ナ大^ナ橋^ナの^ナ舟^ナま^ナる^ナく^ナ 女 吉本

あつゝや切干下尻尾強者 荷今
あゝろろあまゝい紙の多 カダキ 重勝
外去らる琴を悲しむ花のお 桃陰
草芽しよふ竹の交り 横儿

此一帖者於落柳舎書校合変

寺町二条 井つや 重勝判

追加

於義仲寺六七日

惟然

花多にエウキれ其に冬もまま
葉乃紙此をねにエウキし
隅くは火新の四角とくさき
四月かんでとまると後と心 探せ
月新子綿抱へら心 掃くろ 昌唐

かいらに つまきく 狭小印の巻 游刀
 草狩りをもとむるしと及久く 文州
 彦直乃觸にそのむ代 割 純筆
 角能を今にわぬ 家中の 胡故
 なまり 細よ 名 物 直愚
 とやゆきくしつと 梅も 智月
 きちる 細く乃と 瘦くなく 惟然
 恵心佛 ちりか 秋乃 孫 正秀
 前よ 尚よ 鹿 兜 高 此 月 卧 高

新島方に 陰の具 此れなる 蓋わんく 昌房
 茶を 懐 柳くくく 身 游刀
 とらりと 花よ 夕日の 入と 文州
 清一の 構よ むい 胡故
 蘇ぢよ 隣つれ 立 乃 風 直愚人
 芝居を 鼓乃 拍子 魚見
 ひつしきと 茶と 茶に 茶 掃 芝
 地えあめ 笑く 川 微 彦
 啼くく 泣 川 支

ありん乃雙ふとけく雲 文州
 照月と海老名乃侍よあさる也 乙列
 秋此小羊にさしる 隈さく 曲翠
 うれしうる階子の下乃まらり居る
 砂舟の緒を双ふれ 入 藤葉
 お合の終を初せる道 舟 北ま
 茶籠よとるるる乃年の花 園河
 立かろぬ拾ふものとは 中 胡故
 さののさるる河をこ味線まひく 怪物

いはれ乃やうらた多き門庭るる 這華
 花しきぬうらまはなくをま 朴吹
 こつちりとあましく仕出さるの終 曲翠
 むくしあくるさ乃うけらふ 昌房

この仙満座訃音く吟

上座大直

肩うちらし手うらるる泣き声の作戸
 世海や脈乃孫切くささ乃若 荆白

冬扶疎存之こころさぬ日うれふ斜嵐
 之牡丹梅小庭家なけき弘文寺
 鳩宿く周よ女々りそあそり如風
 兼心し一本よ龍さくう藤葉跡者
 あく土乃菓土そくうぬやあそいら胡凡
 草鞋のたなうーや野田の鳥草也
 冬あそり 飯ようううとさよ朱曲
 又おけく張る屋や人 名遠 里末
 泣入く加減の遠小まきさうね 野徑

新井 樹

ちり雲いゆとなごころ乃とあところ 蕪葉
 蓮のふれ枝さくく甲斐なごう田舎 支出
 清る手に併えへよ冬空の ちあ 竹官
 本うしー子候りしちとささむけ外 裾道
 切石とびやく位々りともねの音 教佳
 十方なき洞や枯く柳うけ 柯山
 月代とさうしてしきー城のあ 及肩
 し、新ととやあれやまきし 頭陀袋 鳴枝

